

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17H06161	研究期間	平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度
研究課題名	大脳メタ記憶神経回路の解明：光遺伝学による内省の因果的制御	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	宮下 保司 (理化学研究所・脳神経科学研究センター・チームリーダー)

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、霊長類を用いて、極めて高次の認知機能である「メタ記憶判断」に関わる脳領域や回路を明らかにしようとする研究である。</p> <p>これまでに、磁気共鳴機能画像法（fMRI）と薬理的な不活性化実験によって、霊長類が「知らない」ことを判断する際に、大脳前頭葉第10野が重要な役割を果たしているという重要な知見を明らかにしている。さらに、霊長類を使った光遺伝学的な解析基盤の開発も進めており、マーモセットを用いた新たな研究計画とともに、今後の進展が期待できる。</p>		